

令和7年度 校内研究全体計画

唐津市立成和小学校

1 研究主題

思考力を育成する指導法の工夫
～「かく」ことの指導を通して～

2 主題設定の理由

(1) 社会の要請

大きく変わる社会、そして生活習慣。児童を取り巻く環境は常に変化している。これまでメディアと言えばラジオや新聞、そしてテレビで、情報は受け取るものであった。しかし今ではメディアと言えばインターネットやSNS等を指すことが当たり前となり、情報と積極的に関わり合う時代へと移り変わっている。そのような中で直接人と人が接する機会が減少し、児童の生活経験も不足しており、コミュニケーション力を醸成していくことは喫緊の課題となる。つまり、自分の考えを発信したり、他者の考えを処理したりできる力に加え、発信の責任、発言の影響等まで考える力を、これまで以上に育てていかなければならない。

(2) 本校の児童の実態

本校の児童は明るく元気がよく、伸び伸びと学校生活を過ごしている。社会性もあり、すぐに友達づくりができる児童が多い。決まったことはしっかりと話したり、行動したりできるが、その一方で自分の思いや考えを相手に分かるように伝えたり、工夫して活動したりすることが苦手である。それは学習面でも顕著である。これまでの諸調査は、選択問題は比較的全国平均に近い値であったが、記述式の問題や根拠等を説明する問題に大きな課題を残す結果となっている。また、無回答率が低く、自分の考えを書こうとする態度は伺えるが、基本的な学習内容の定着に課題が見られた。自分の考えを文字や音声にして表現する力の向上が求められる。

(3) これまでの校内研究

本校ではこれまで道徳教育や保健体育の指導を中心に研究を進めてきた。それは本校教育目標である「あたたかく、力強く、目標にチャレンジする成和っ子の育成」に大きく寄与してきた。ただ情報化社会により、周りの環境が大きく変わる現在においては、ICTに係る力が必要だと考え、この2年間は主体的・対話的で深い学びの実現を目指し、1人1台端末を活用した授業を進めてきた。その結果、教師はタブレットを徐々にツールとして活用できるようになり、授業でも多くの場面でタブレットを使い、課題を解決しようとする姿が見られるようになった。さらに今後は、タブレットをも思考のツールとしながら、これまで研究が進められてきた「書く」「描く」活動を工夫することにより、自分の考えを整理したり、表現したりできる力を育てていくことが早急な課題だと考える。

(4) 3ヶ年の計画

そこで本研究では3年間で1つの目安として研究を進めていく。研究の進め方としては「楽しむ段階」「分かる段階」「深める段階」と1年1年を積み重ねて、研究主題の達成を目指す。1年目は考えること、「かく」ことを苦にしない、楽しめる段階。2年目は自分の考えに加え、目的を明確にしたり、他者の考えも受け入れたりした上で「かく」ことができる段階。3年目は自分の考えを相手や目的に応じて「かく」段階。自分の考えを自分の「ことば」で表現できる児童の育成を目指す。3年後の見通しをもって研究を進めることが大切ではあるが、状況によって次の年の実践を修正することは当然あり得る。

3 研究の目的

今後、社会は予測することさえ難しいと言われる時代へ向かう。8年前だろうか、今の職業の半分が20年後にはなくなるだろうと予測された。そんな変化の激しい時代であっても、人として考えること、人との関わりをもつことは普遍的なものであり、当然人として備えるべき資質・能力である。

自分の考えを述べ、相手の考えを受け入れ、更に考えることを重ねていく中に思考の広がりや深まりが期待できる。それを支える根幹の部分として「かく」ことを通して考えを整理したり、表現したりできる児童の育成が目的となる。その目的を達成するために、教師の指導技術の習得を求めて、その内容と方法を明らかにしていく。

4 研究の内容

(1) 「かく」ことの理論研究と授業実践

- ・「書く」「描く」「打つ」と思考力の整理をする。講師を招聘し、思考力の理論研究を行い、教科の特性に応じた思考力の整理をする。
- ・他者の考えを受け入れ、自分の考えを深めるような授業を実践する。(CWやGWの効果的な取組)
- ・児童が意欲をもって書くための取組を研究する。(相手意識をもたせる、書いたものを発信するなど)
- ・教科横断的なカリキュラムを作成する。
- ・全校授業研究会、グループ授業研究会を適度に行い、全職員が共通意識をもつと同時に、成果と課題を整理する。

(2) 児童の活動を支えるための取組

- ・語彙獲得のために、理解語彙から表現語彙への移行を意識した実践
- ・短文作りの実践(三文作り、始め・中・終わりを意識した文づくり) 日記指導の充実
- ・図書館教育の充実
- ・スキルタイムの活性化
- ・辞書引きの工夫、新聞記事の活用
- ・家庭学習の充実と自学学習の進め

(3) 推進委員会・学年部会等を通じた取組

- ・各組織の役割に応じて、研究主題達成に向けて活動を進める。
- ・研究授業の際には、当日の記録や写真などを分担し、協力して研究を深めていく。

(4) 研究紀要の作成

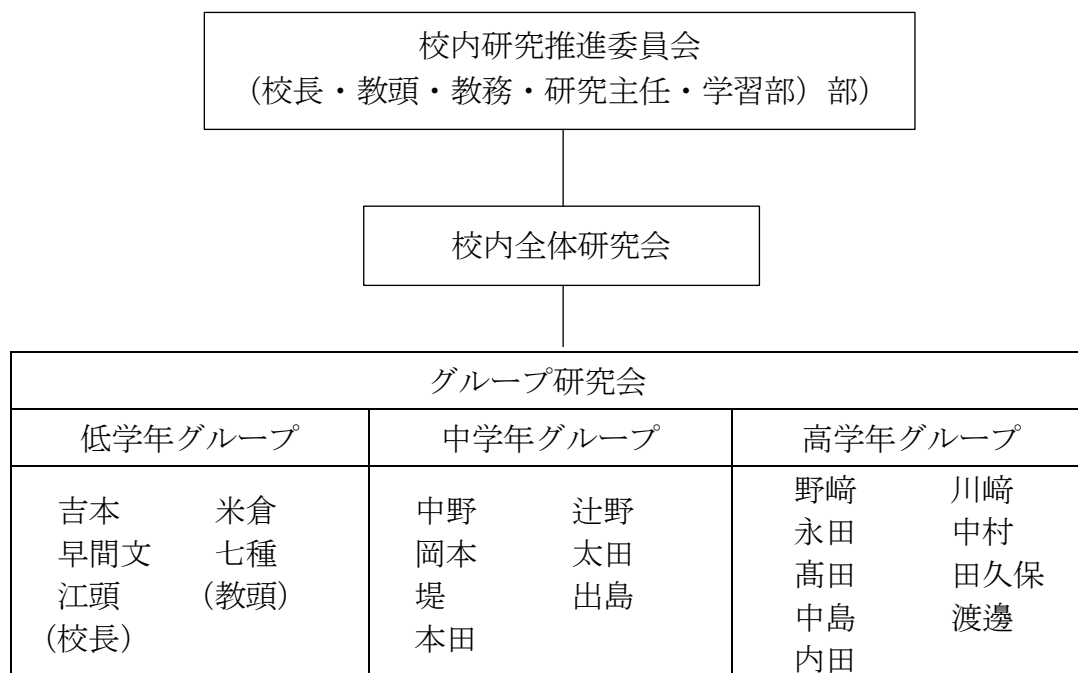
- ・1年間の研究の実践や、成果と課題をまとめる。

5 期待する研究の成果

1年目の「楽しむ段階」では、児童が「かく」ことを楽しみ、文章量が増えたり意欲的に学習に取り組んだりできるようになってきた。2年目は自分の考えに加え、目的を明確にしたり、他者の考えも受け入れたりした上で「かく」ことができる段階。教師は思考が可視化できるように取組を進めることができた。

3年目は、自分の考えを相手や目的に応じて「かく」段階とする。教師は3年間の指導を検証し、改善していく。今年度「深める段階」では、自分の考えを自分の「ことば」で表現できる児童の育成を目指す。

6. 研究組織



7. 研究計画

日時	内容	
4月 3日 (木)	研究推進委員会	・今年度の研究について ・研究主題の検討
4月 4日 (金)	第 1 回校内研究会	・研究主題決定 ・年間計画確認 (低・中・高)
5月 14日 (水)	第 2 回校内研究会	・各グループの目指す児童像、統一して行う教師の支援・取り組み決定
6月 4日 (水)	第 3 回校内研究会	・全校研日程決定
7月 9日 (水)	第 4 回校内研究会	・第 1 回全校研
8月 25日 (月)	第 5 回校内研究会	・夏休みに講師招へい (未定)
9月 10日 (水)	第 6 回校内研究会	} 2 グループ全校研
10月 29日 (水)	第 7 回校内研究会	
11月 5日 (水)	第 8 回校内研究会	
12月 17日 (水)	第 9 回校内研究会	
1月 28日 (水)	第 10 回校内研究会	・
2月 中旬		・グループ研究の振り返り、研究のまとめ ・研究冊子の製本作業
3月 上旬		・本年度の反省 ・冊子完成

☆各グループより全校研 1 つ

その他の先生もグループ研を行う。指導案は略案でよい。(A 4 2 枚程度)